

管内町村長 この1年 大 樹

近年、市町村合併や地方交付税削減、人口減など大きな波が幾つもあったが、先人が築いた「大樹町」の80周年を迎えることができた。教育面では道立高校再編で窮地に立たされた大樹高が、活性化推進協議会の取り組みなどもあり、今年の入学が50人を超えたほか、開校60周年も迎えられた。大樹小の新校舎が3学期から供用が開始される。木をふんだんに使い、日光を多く取り入れた明るい校舎で、



伏見悦夫町長

先人の築いた町が80周年

航空宇宙実験場の運用開始



来年1月から供用が始まる大樹小の新校舎。見学会には多くの町民が訪れた(11月29日)

子供たちは伸び伸びと学習し、の運用が開始された。JAXAの6基打ち上げも成てくれると思う。Aの大気球実験で大樹漁協が宇宙航空研究開発機構(JAXA)と町で連携協力協定し、地元スタッフ7人も活躍を締結、大樹航空宇宙実験場とした。道産ロケット「CAM」の6基打ち上げも成功。実用化のめどが立ち、各種研究機関の利用に対応できるようにになった。

一方、社会的には残念なこと多かつた。何の罪もない人、無抵抗の幼児を殺傷する事件が相次ぎ、自らの不満を無差別殺傷に置き換える理不尽な犯行に大きな憤りを感じた。世界不況では地域の経済に大きな影響を及ぼし、景気悪化・雇用低迷をもたらした。来年以降の菅農に大きな不安がつきまとう。食品の産地偽装や不当表示も腹立たしい。消費者をたまた、利益のみ追求する風潮がはびこっている。食糧生産基地として、生産者と消費者の信頼関係が大切と改めて感じた。

来年は子ども農山漁村交流プロジェクトモデル地域の本格的活動が始まる。都市と農村の交流や食育を通じ、農山漁村の重要性をPRしたい。